

令和4年度 学校評価（自己評価）

0. はじめに

本年度は、令和4年6月15日に実施した公開保育についての検証・評価を行いたい。

なお当園は、年に20回程度の研究授業を実施しているが、それら研究授業と公開保育の目的や目指すものは、ほぼ同一である。

●以下、目標設定（P） 実行（D） 評価（C） A(改善) の各要素について、学校評価を行う。

I. 目標設定（P）……先生の指導力の向上に尽きる。

公開保育や研究授業において、自分が色々と研究し授業を行う経験も得難いものではあるが、他の先生の授業を観ることもすこぶる有益である。素晴らしい授業はもちろん大きな参考となり各自の目標となるのであるが、その反対に他の人の未熟な授業を観ることで、自分の授業ではなかなか気付かない点に、目が向き自分のまずさに気付くことが出来るものなのである。

そういう意味においても、今回の公開保育には、平常の研究授業と同じく、可能な限り当園の先生方が多く参観できる体制をとった。

II. 実行（D）

まずは、どういう領域を公開し、どの先生が授業するかとの討論から入った。

●公開する領域

★大きなテーマとして歌唱指導 並びに 日本の古典に触れる

- ・楽しいフラッシュカードで心を開放する
- ・心の次は、リトミックで筋肉を柔らかくする。
- ・発声練習 そして歌「ぎゅー博士」で、心と身体を共に柔らかくし自分の気持ちを表現する時間をももつ
- ・松任谷由実さんの「春よ来い」を合唱
- ・日本の古典に触れる 平家物語より「祇園精舎の……」を朗唱する
- ・次には音階に合わせ、合唱的に朗誦するとともに、日本文化の特徴である無常の意味を知り、無常観を養う。そして今を大切に生きるという情緒を育てたい。

●先生の選び

★領域から年長の先生でとなったが、前田先生が立候補され全員異議なくお願いすることとなった。

●招待の方々

★平生から当園への見学希望の方は多くいるが、この機会に、行政の方にも幼稚園教育を理解して頂きたいということで、多くの教育関係者の方や行政の方を含んだ日程調整が、一番の困難点となった。

★ここに、今回の公開保育の参観者の名簿を記載しておく。

外部有識者	諸石隆文	山寺 礼子		
学校関係者評価のメンバー	植野 明子	石川 華奈子	奥本 昌代	山中 春奈
カトリック天使幼稚園	森澤 由子	窪川 佐智代	林 侑加	名角 宏佳
二色幼稚園	芽木 信樹	川崎 阿子		
賢明学院小学校 音楽科教諭	山寺 礼子			
市長	千代松大耕			
府議会議員	松浪武久			
市議会議員	中藤大助	布田拓也		
泉佐野市子ども部	課長代理兼保育係		主幹	
	貝塚美奈（旧姓 有本）		稲田 純子	
育友会役員	福田 美咲	奥野 絵美	西出 奈緒美	
安松幼稚園の先生	20名			

補：私学課・幼稚園振興Gの方にも声をお掛けしましたが、
他のご公務とのことで欠席となりました。

●公開保育そのものの実行を理解いただくために、公開保育の概要を掲げます

公開保育（研究授業）の概要

令和4年（2022年）6月15日

●安松幼稚園の立するところ

安松幼稚園の設立趣意書には、「心身共に健全なる幼児の育成に努め、以て文化日本の建設に九牛の一毛にてもお役に立つべく決心した次第です」とありますように、日本の文化・歴史を次の世代に伝えたいという大きな目標の基に、安松幼稚園は設立されました。

●国語領域の大切さ

藤原正彦先生の著述に「祖国とは国語」がありますように、その国の文化はその国の国語に集約されます。

一つの国を亡ぼすには、一世代（約 25 年）に渡ってその国の国語の使用を禁止すればいいとも言われています。安松幼稚園では、児に、格調高い日本語に触れさせると共に、日本の代表的な古典に触れ、意味を知り、暗記・朗唱させることによって、ほんもの の教養（日本の文化・歴史）に迫っていきたく考えています。

今回の研究授業は、音楽を通して、こういう過程を経験させたく思っています。

●本日の研究授業への取り組み……第1時限のみ2階梅組教室 それ以外は2階ホールです

最初の集い	9時30分～45分	本日の予定	並びに	研究授業の意図するところ
第1時限	9時45分～10時15分	総合音楽	&	歌唱 春よ来い（松任谷由実さん）
第2時限	10時15分～30分	日本の古典に触れる		
		平家物語より	『祇園精舎』の朗唱	
第3時限	10時30分～12時15分	反省会		



●本日の授業の意図

総合音楽 & 歌唱 春よ来い

★歌唱指導の根本 いい顔 いい声 いい心

表情のない歌唱は音楽ではない

歌唱の準備運動として、体・筋肉を柔らかくしなければならない。それと共に、明るく響く声は、心の楽しさから生まれる。毎日の練習で、今日は歌声がもうひとつやなあという時は、児に表情がなく、心が躍っていない。

★別紙の授業案◎本時の流れ の上に、本時の意図を記しているが、下記を補足しておく。

集中力の育成 合唱は聲の集大成と言われる。合唱では、全ての児が指揮者を見つめるといふ集中力が不可欠である。

別紙の授業案◎本時の流れの ①フラッシュカードやクイズ ③でのリトミックは、集中力の育成と楽しさの喚起が意図されている。

さらには、発達に配慮を必要とする児たちにとっても、楽しみながら集中力を身につけるための大きな一助となっている。

静と動の繰り返しが多動など集中力の欠ける児への指導として有効であることを付記したい。

★②③で、子供達がリラックスし、最後の歌に集中しやる気をもって取り組んでいく姿をご覧ください。(2月の音楽会に向けて取り組み始めたばかりですので、まだまだ色々なところが不徹底で未熟な歌声ですが、お聞きいただけたら嬉しいです)

平家物語より 『祇園精舎』 の朗唱

★日本の文化の特徴の一つとして挙げられるのは、『全てのものはうつりかわり、ずっと同じ状態だとどまることはない』という日本人の無常観であろう。

日本人は、散りゆく桜にも自分の人生を投影し、秋の虫の鳴き声にも様々な人生の生き様を観ることができる。多くの外国人は、虫の鳴き声は喧しいもの (noisy) と捉えるようである。

★日本人のもつ 美的感受性 美的情緒に 平家物語の一節にて触れる。



平家物語

保元の乱平治の乱に勝利した平家と、敗れた源氏の対照的な姿、その後の源平の戦いから平家の滅亡、没落しはじめた平安貴族と新たに台頭した武士たちの人間模様を描いている。

作者 不詳 盲目の僧である琵琶法師により語り継がれてきた。

ひとえに風の前の塵に同じ	猛きものもついに滅びぬ	ただ春の夜の夢のごとし	おごれる人も久しからず	盛者必衰の理をあらわす	沙羅双樹の花の色	諸行無常の響きあり	祇園精舎の鐘の声
--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	----------	-----------	----------



☀️パワーポイントにより四季の移り変わりや、源平の戦い、沙羅双樹の花などを観せ、映像からも、上記の意味を捉えさせている。

●さいごに 安松幼稚園の根本とするもの

安松幼稚園の二つの柱

①美的感受性・美的情緒を育みたい

美的感受性・美的情緒とは、綺麗な歌声を聞いて涙する心、心に響く話を聞いて感動する心のことです。こういう感受性・情緒は、創造的な仕事の源となるのです。

②子供の周りから困難や障害を取り除くのではなく、情熱をもって最後までやり遂げる力を育てたい

※上記のためには、情熱的な先生が不可欠である

人を育てる

幼少のころに ◎惻隱の情 ◎卑怯を憎む心 の2点を色々な生活体験の中で育てたい

学校は教師力で決まる

教師力とは、先生の熱意と指導力

それが安松幼稚園の誇りです

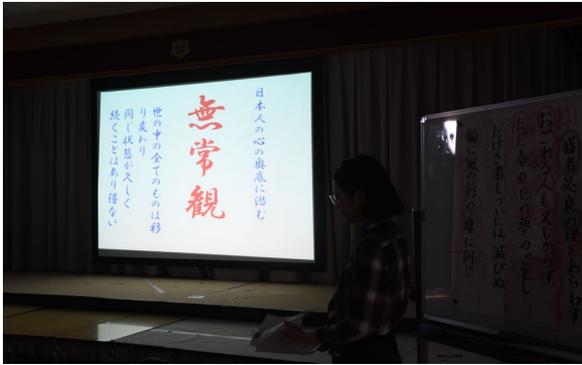
Ⅲ. 評価 (C)

●公開保育当日の記録写真を先ず掲げたい。

令和4年度 2022年 6月15日(水) 9時30分～12時15分

最初の6枚は教室での 総合音楽 次の3枚はホールでの平家物語の一部を朗唱







10:30~12:15 反省会



左から賢明小学校音楽科・山寺先生 大阪教育大学音楽科・諸石先生
千代松・泉佐野市長 安松幼稚園理事長・安井



左から2人目から 松浪・府議会議員 中藤・布田・市議会議員



二色幼稚園の先生方



カトリック天使幼稚園の先生方



学校関係者評価のみなさん



中央は授業者の前田先生



外部有識者でもあり、
賢明小学校・
音楽家の山寺先生



反省会では活発な意見が交換されました
挙手して発言を求めているのは、中藤市議会議員です

その写真の様子から、公開保育そのものの熱気、あとの反省会の充実ぶりをお伝えしたい。
反省会では、いくつかの質問が出た。ここにその一部を記載することで、評価の一助としたい。

※質問「歌唱以前の準備について」

歌唱の前には、筋肉を柔らかくすることの大切さはよく言われていますが、それ以上に心の柔らかさが重要です。「今日は子供の声に、明るさや響きがないな」と感じる時は、心が硬くなっています。歌唱の準備としては、心の躍動そして体・筋肉の柔らかさを引き出さなくてはなりません。

※質問「児の表情がとてもいいが、どのようにすればあの表情を出せるか」

安松幼稚園では、歌唱における表情・表現を大切にしています。
表情のない歌唱は音楽ではないと思っています、児達が生き生きとして歌いたいところまで気持ちをもっていかねばなりません。日常のお話、リトミック、ダンスなどを事前に行うことにより気持ちが前向きに楽しくなります。とても良い表情になり、明るく響きのあふれる歌声になるのです。

※質問「歌唱時に子供が色々な手ぶりをしているが、その意味は」

安松幼稚園では、表現（動作）と呼んでいます。多くの他の園でしている子供の可愛らしさを売り出す意味での振り付けでは全くなくて、全て音楽的に意味があるものです。

一つには、表現には 押す アタック 抜く など多様な動きがありますが、声はその動きに連動します。歌詞の持つ意味合いに適した表現をすることにより、歌詞の情感にふさわしい声・発声を意図しています。

もう一つは、100人が上手に歌えても、合唱ではその声の一つに合わなくては、バラバラの声になり合唱とは言えません。同じ動作をすることにより、声が揃い、弱起の曲などにも対応できるのです。

※質問「発声の仕方が児により変わっているように聞こえるが、また指揮の先生が時より話すミックスの意味は何か？」

個々の児により、無理なく発声できる音の高さが異なるので、一人一人の発声を聞き分けて、ある音から高い音については裏声による発声となりますが、それは個々の児により異なります。歌唱の音の高さにより、全員が地声で歌える個所と、人によれば裏声（頭声発生）でなければ歌えない高さもある。ミックスとは、地声で歌う人と裏声で歌う人の混合の歌い方をミックスという指示を出している。

※質問「日本の古典である平家物語は、子供に難しくはないか」

赤ちゃんが日本語を覚えていく過程は、赤ちゃんにとって難しいのでしょうか？

私たち大人が外国語を学んでいくのは相当な困難を伴いますが、赤ちゃんは苦勞せずに母国語を学んでいきます。

古典（日本の古典や漢文の書き下し文）は、リズム良く、児達にとっては歌を覚えるのと同じです。教育は大人の頭で難しい優しいを考えるのではなくて、子供の発達段階を研究し、教材を開発していかななくてはなりません。

上記のような問答、もしくは安松幼稚園の先生からの説明があり、参加の多くの方から、「素晴らしい」との高い評価を頂いた。

以上が当日の反省会の内容であるが、当日の反省会においても参加者から高く評価された。本日の自己評価においても、上記の内容の確認がなされ、**公開保育は、当園の先生方の実力を高める機会となり、また園外からお見えの多くの方との交流を通して、非常に意義深いものであったと、高く自己評価するところである。**

IV. 改善 (A)

- 公開保育の際の反省会において、色々な方の意見や質問を受けることは、独善的な独りよがりの思考・行動を是正でき、多方面にわたり色々なことに考えを及ぼす機縁になると感じた。今回の自己評価においても、単一の思考に陥ることなく、常に新しい知識を吸収していく必要がある。これらが、**事態の改善に直結する**と考えている。
- 今回の学校評価は、公開保育に関するものだが、当園では以前から園内の先生による研究授業には、大阪府私学課の先生方 各市の市長 教育委員会の先生方 行政の方々が参観に来られている。ここに、過去の一例を挙げておく。

府私学課の方 各市 からの参観の記録

- ①平成19年（2007）10月24日 南海支部における公開保育
府・私学課からからは 課長・岡本富士男様 課長補佐・榎下朋浩様
・年中 サーキット運動
・年少 言語発表
・年長 音楽（発声） 環境（体の仕組み） 体育（開脚跳び）
約180名の参加
- ②平成24年（2012）11月15日 私学課の方2名に対する研究授業
課長補佐・里村征紀様 主事・濱野素子様
・年少 歌唱（北風小僧の寒太郎）
・年中 漢字の導入 & 俳句の導入
特別支援教育についてのレク
- ③平成25年（2013）6月25日 府私学課 主査・米本恵子様
お楽しみ園内音楽会
- ④平成26年（2014）6月24日 府私学課 主査・野元雅史様 副主査・泰道泉様
お楽しみ園内音楽会
- ⑤平成27年（2015年）11月5日 泉佐野市長&和泉市から多数
泉佐野市千代松市長 八尾教育委員会委員長・委員・市議会議員・園長
・年長 跳び箱 歌唱 古典
・年少 君が代の導入
- ⑥平成28年（2016年）6月13日 私学庁最初の私学監・現大阪府教育長・橋本正司先生
課長補佐・玉作智様 管理総括・中村哲也様
・年長 歌唱 跳び箱 論語
・年少 歌唱
続いて 午後2時~4時 反省会
- ⑦平成29年（2017年）10月19日 南海支部における公開保育
府・私学課からからは 参事・近藤未生様 主事・上岡賢治様 主事・山口裕加
・年少 お遊戯
・年中 サーキット運動
・年少 言語発表
・年長 歌唱・ダンスを楽しもう
・ホールにて全学年の歌唱発表

※最近は コロナ禍の為 途切れています

- なお、上記の自己評価の傍証として、学校関係者評価の会に対して、公開保育後、音楽科・山寺先生から頂いた論考を提出したく考えている。

令和4年度 学校評価（学校関係者評価）

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された令和4年度の学校評価（自己評価）は、「令和4年度6月15日に実施された公開保育」がテーマでした。

①授業者・参観者ともに、教師力が向上するような内容であったか

②参加された方々の質問・意見を拾い上げる方向で、反省会の運営がなされていたか

に主眼をおいて、学校関係者評価を行いました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

II. 先ずは、自己評価の検証

(1) テーマ（P目標設定）

公開保育が、『先生の指導力の向上』を目指してのものであることは、論を待たないと考えます。先生の資質の向上が、即 児達へ色々なものが還元されると存じます。それ故、時機を得たテーマ設定であると存じます。

(2) 具体的にどのような事をされているか（D実行）そして（C評価）

令和5年度の学校評価委員は、全員、昨年度から継続しています。それ故、私達も昨年度の公開保育に参加していましたので、自己評価にある 実行（D） 評価（C）は、事実通りの起債であり、正確に状況を伝え、参加された方々の質問・意見を丁寧に取り上げられていたことを、証します。

実際に参観した私達は、その授業そのものに感動し、あとの反省会では、そういう深い裏付けがあつての指導かと感心致しました。

また参加の多くの方も、高い評価をされていたことを、学校関係者評価としても申し上げておきます。

さらには、学校関係者委員会としても、安松幼稚園の公開保育に関する運営・行動を、高く評価致すとともに、私達学校関係者は、**安松幼稚園の自己評価を適正**とお認めします。

その傍証として、園から提示されたのですが、公開保育に参加された音楽科・山寺先生の論考をここに紹介したく存じます。

●昨年令和4年6月15日に、歌唱指導をテーマに、公開保育を実施しました。

音楽の専門家として元大阪教育大学の諸石先生、賢明学院音楽科の山寺先生をはじめ、近隣の幼稚園の先生方、泉佐野市長、府議会議員、市議会議員、泉佐野市の子ども部の方々、学校評価の委員をして下さっている卒園生の保護者の方、育友会の役員さんなどが参観くださいました。

後日、賢明学院音楽科の山寺先生から『反省会では言い足りなかったの』ということで、頂いたメールを紹介したく思います。安松幼稚園の自己評価が適切であると考えました、一つの根拠にもなると存じ上げ、ここに掲載いたします。

本日は公開保育に参加させていただき、ありがとうございました。いつか保育の様子を、特に音楽の時間を見学させて頂きたいと常々思っていたので、本当に嬉しかったです。

園児さんたちの体幹は、どのように鍛えられているのでしょうか。以前に音楽会を拝見したときも感じたのですが、歌いながらサイドステップするときに、フラフラしてしまう園児さんがほとんどいないことに本当に驚きます。

いい姿勢を保つことができること、腹式呼吸を使ってきれいな声で歌うことができるのは、強い体幹にあるのではないかと思います。身体は小さくても、大きなクスノキのような雰囲気さえ感じさせる園児さんたちを見ると、パワースポットに行った時のように、身体の中にムクムクと力が漲りました。

前田先生の指先は、まるで魔法使いのように園児さんたちの意欲を上げ、美しい声を導き出されていきました。そして先生と園児さんたちの信頼関係の深さは、先生の園児さんたちに対する愛情の深さからきているのではないかと思います。

園児と先生ではなく、人と人として、一緒に曲を完成させていく過程を観せていただいた時間でした。貴重な機会にお誘い下さり感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。(山寺礼子 記)

注：その後、賢明学院小学校・幼稚園の音楽の先生方の見学学びの機会をぜひ作ってほしいとお申し入れがあったとのことでした。

(3) A 改善

公開保育の反省会において、色々な方の質問・意見を丁寧に受け止め、議論の俎上に乗せられていく柔軟な姿勢には、私たち保護者にとりまして、とても参考になる運営の仕方でした。そういう受け止め方をしてくださることが、柔軟に色々な物事を改善していくという姿勢につながると考え、今後ともぜひ願したく存じます。

Ⅲ. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりました。

ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であると認めます。